

# 当院のロボット支援胃切除術がテレビで紹介されました



## 【認可】手術支援ロボット胃がん摘出「先進医療」へ

5/3 00:25



滋賀県の大津市立病院で、ロボットを使って胃がんを切り取る手術が、国の「先進医療」の認可を受けることが決まりました。これまでよりも、安く高度な医療が受けられると期待されます。



大津市立病院が、去年3月に導入した手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」。医師が遠隔操作し、人の手よりも精密な動きで、がん細胞を取り除きます。

病院では、国が基準に定めた20症例の手術に成功したことから、胃がん手術について、近く「先進医療」の認可を受けることになりました。保険も適用されるようになるため、一般的に、患者負担が100万円以上かかる手術を、今後は60万円ほどで受けられるようになります。「先進医療」の認可を受ける施設は、全国で8番目だということです。

### 最新ニュース

2016年05月02日（月）の記事

### 大津市民病院 先進医療認可へ

大津市民病院の医療ロボットによる胃がんの手術が、県内の病院では初め国の「先進医療」に認可されることになりました。国の先進医療に認可されるのは大津市民病院が2年前に導入した内視鏡手術の支援ロボット「ダ・ヴィンチ」で行っている胃がんの摘出手術です。「ダ・ヴィンチ」は1センチから2センチほどの小さな穴から腹腔鏡カメラをロボットアームで体内に挿入して、医師が患部の3D画像を見ながら遠隔操作で、胃がんの切除や縫合などが行える医療ロボットです。従来の手術方法に比べ、合併症も少なく、患者にも負担の少ない手術方法として注目されています。大津市民病院では、去年3月にこの「ダ・ヴィンチ」による初めての胃がんの摘出手術に成功し、これまでに国が定める「先進医療」の認可に必要な20症例を達成したということです。大津市民病院ではこれまで、ダ・ヴィンチによる前立腺がんの摘出手術は保険適用が始まっていましたが、胃がんの摘出手術で「先進医療」の認可が行われるのは、全国では8例目、県内では初めてだということです。正式には来月認可される見込みで、手術後の経過などを確認して、2018年度には、先進医療としての保険の適用も実施される見通しです。



## ロボット手術 滋賀で広がる

大津市民病院など 胃、腎がんも適用



滋賀県内でがん治療への活用が広がっているロボット支援手術。手術台上のアーム(右)を、機器に座った医師(左奥)が操作する—大津市本宮2丁目・大津市民病院

滋賀県の病院で、腹腔鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」を活用したがん治療が広がっている。従来の前立腺がん手術に加え、大津市民病院(大津市本宮2丁目)では胃がんの、滋賀医科大学付属病院(同市瀬田月輪町)では腎がんの手術にそれぞれ活用されており、患者の身体的負担を軽減しつつ、より安全な治療ができると期待されている。

ダヴィンチは内視鏡カメラやメスなどを装着したアームを医師がモニターを見ながら操作する機械。アームは人間より精細で自由に動き、手ぶれもないため、難易度の高い手術も可能とされる。

大津市民病院は2014年5月に導入し、胃がん切除手術の専門チームを結成。今年3月までに年間20回の手術を成功させ、全国でも7施設しか取得していない「先進医療」の認定要件を満たした。

認定後は手術以外の入院費などに保険が適用され患者の経済的負担が軽減されるほか、民間保険の先進医療特約の対象にもなる。同病院長の片岡慶正院長は「多くの患者に安全な医療を提供するとともに、日本の医療をリードする病院として医師らの育成にもつなげたい」とする。

13年からダヴィンチを運用している滋賀医科大学病院では、腎がん部分切除で4月から保険診療ができるようになった。腎臓にできた転移の恐れがない直径4〜7センチの腫瘍の摘出が対象となる。従来の腹腔鏡手術に比べて腎臓の血流を止める時間を短くできるため、腎臓の機能が悪化するリスクを下げられるという。同病院は年間約80例の実施を目指す。

ロボット支援手術を100例以上実施してきた同大学泌尿器科学講座の河内明宏教授は「手術時間が短縮されれば心筋梗塞など合併症のリスクも抑えられる」と話している。

(小川卓宏、能美孝啓)

## 6月にも「先進医療」に 大津市民病院、ダ・ヴィンチで胃がん手術

大津市民病院は二日、内視鏡手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を使った胃がんの摘出手術が、国の定める「先進医療」の申請に必要な二十件を超えたと発表した。来月、認可を受ければ保険診療との併用ができるようになる。全国八施設目で県内では初めて。

先進医療は保険適用外の高度な医療技術のうち、厚生労働省が保険対象とすべきかを検討するもので、認可を受ければ高度医療以外の入院費などが保険適用される。ダ・ヴィンチによる胃がんの手術は、最短で二〇一八年度に保険適用となる見込みで、先進医療の認可施設で症例を積み重ねている段階という。



ダ・ヴィンチによる胃がんの手術方法などを説明する岡部医師(右)と片岡院長=大津市本宮の大津市民病院で

同病院では昨年三月、県内で初めてダ・ヴィンチによる胃がんの手術に成功。今年三月までに計二十一件の手術をした。患者の負担を減らすため、既に費用は先進医療の場合と同程度の六十万円ほどに抑えている。

二日、片岡慶正院長と手術を担当する外科診療部長の岡部寛医師が会見。片岡院長は「認可されれば患者からの信頼も増す。先進医療に携われる病院として人材育成にもつなげたい」と話した。

ダ・ヴィンチは関節を持つロボットアームの先端部分を体内に挿入し、医師が3D画像を見ながら遠隔操作して手術する。アームの可動域が広く、手ぶれも補正するため、従来の腹腔(ふくくう)鏡手術よりも安全で緻密な手術が可能。合併症の発症率も低く、入院日数も短く済むという。

(井本拓志)